

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目		H26目標値	結果・所見	H27目標値	
細目	評価の視点				
1.使命と計画					
①中長期計画					
A. 目標と計画・重点事業の構築、事業への活用	<ul style="list-style-type: none"> 目標設定と具体的計画・重点事業の構築 事業への活用状況 	継続	<ul style="list-style-type: none"> 年次計画はあるか。→ Yes 事業等の優先順位を付けているか。→ Yes年次計画による優先順位 実施スケジュールを立て予算要求しているか。→ Yes 年次計画による要求 事業実施に至っているか。→ Yes年次計画に沿った運営を行っている 		<p>【課題】年次計画の実施中長期計画の更新。施設設備の経年劣化に伴う更新</p> <p>【改善案】現状を的確に把握して本館等の関係者に状況を報告し、必要に応じて年次計画を修正するとともに、予算要求の準備を含め事業をすすめる。また、各自の分掌や役割分担を明確化するとともに、柔軟性をもって計画された事業を実施する。</p>
有識者所見		<ul style="list-style-type: none"> 施設設備の経年劣化は館のイメージダウンにもなる可能性があります。安全面(人、資料)については、十分注意してください。緊急性のある場合は即改修する必要があります。【戸枝】 			
②評価の実施					
A. 評価の実施と結果の反映	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価及び外部評価の実施状況 P.D.C.A.サイクルへの反映状況 	継続	<p>自己評価は毎年度実施している。また、事業毎にアンケートをとり、これを職員全員に供覧して情報を共有化することにより、改善に努めている。</p> <p>事業計画の立ち上げ段階から前回事業の評価を踏まえての検討を行い、当館の使命に準拠し、より効果的な事業実施を目指すように努めている。また、事業終了後は実施報告を行って事業の評価確認することにより、続く事業での改善につなげている。</p>		<p>【課題】海の博物館の事業内容に即した評価</p> <p>【改善案】海の博物館の使命を達成するためには、調査・研究、資料収集とその成果を県民に還元する展示、普及の各事業がある。これら全体をバランス良く評価することが重要であり、今後も評価方法や項目等をさらに検討しながら、より良い博物館活動の実施に反映できるようにしたい。</p>
有識者所見		<ul style="list-style-type: none"> 改善案に沿って実施してください。①にもよるが、展示資料・装置に不具合がある場合は速やかな対応が必要になります。【戸枝】 			
2.組織と運営等					
①組織・人員					
A. 職員研修	<ul style="list-style-type: none"> 研修への参加体制の整備状況 参加状況(種類・件数・人数) 	継続	<ul style="list-style-type: none"> → Yes 本館経路による研修会の通知等は、全員に回覧し研修希望職員については、予算の範囲内において可能な限り受講の機会を与えている。 千葉県博物館職員研修:1名 文化財保護担当者研修:1名 		<p>【課題】予算の不足への対応</p> <p>【改善案】予算的に不足しているため、参加する研修(学会を含め)は話し合いにより調整する。また外部資金の獲得に努める。</p>
有識者所見		<ul style="list-style-type: none"> 研修には極力参加し、内容の共有を図ってください。資料の回覧やコピー配付など行ってください。【戸枝】 			

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目		H26目標値	結果・所見	H27目標値	
細目	評価の視点				
②県民ニーズに則した運営					
A. 利用者数	<ul style="list-style-type: none"> 当該年度の利用者数 前年度比較による傾向 	5%増 67,100人	<p>①利用者数に関して、総人数、小中高大学生、65歳以上、団体等の分類で算出する。 総入館者数：68,835人、累計：1,989,730人、個人：63,055人、団体数：117団体、団体人数：5,780人、一般：34,043人、高大生：2,158人、乳幼児：6,623人、小中生：13,246人、65歳以上：12,765人 情報問い合わせ件数：952件、参加体験事業参加者総数：8,606人、HPアクセス数：42,058件。</p> <p>②上記の各分類別の対前年度比を算出する。 総入館者数：112.5%、個人：113.3%、団体数：81.8%、団体人数：107.1%、一般：108.5%、高大生：126.4%、乳幼児：122.7%、小中生：106.7%、65歳以上：123.9% 情報問い合わせ件数：118.6%、参加体験事業参加者総数：107%、HPアクセス数：101%、資料閲覧件数：— ○入館者動員67,100人（前年度比105%）の目標に対し、7月頃までは低調であったが、試みとして夏休み直前に新聞に折込広告を入れたのが効果があったようで8月の入館者は大幅に増加した。秋にも新聞折込広告を入れるなどして前年を上回る状況が続いた。また、2月14日からのマリンサイエンスギャラリーくらげ展が当たりで目標を達成することができた。●目標値・指標：達成（達成率：102.6%）</p>		<p>【課題】入館者の増加 【改善案】東日本大震災の風評被害も落ち着いてきたようであるが、入館者が安心して見学できるように、引き続き海の安全性や緊急時の避難方法を説明するとともに、24年度からリニューアルされたHPの内容の充実及び各メディアを積極的に活用した広報活動により、一般だけでなく、県内外の児童・生徒・学生団体等に対しても博物館のPRを図る。 また、常設展示以外の企画展示や体験活動の充実に努め、子どもたちに人気のスタンプラリーを継続し、さらに隣接する勝浦海中公園センターや地元の観光宿泊施設等と連携し、地域特性をいかした事業展開及び広報活動を取り入れて集客力のアップをはかる。</p>
B. 満足度・ニーズ等の調査、結果の反映	<ul style="list-style-type: none"> 実施方法と結果 結果の事業への反映状況 		→ Yes 展示室において自由記載方式のアンケート用紙を常備している。それにより、展示内容・料金等に関する意見は、概ね把握している。		<p>【課題】マーケティング調査の改善 【改善案】現在は、自由記述方式のアンケートだけなので、マーケティング調査の方法を検討する。</p>
有識者所見					
<ul style="list-style-type: none"> 各年齢層とも利用者が増えている。近隣観光施設との連携も有効だと思う。館の特徴から体験参加と観光立案に分けられるでしょうか。団体のツアー誘致も検討してください。【戸枝】 利用者数について、今年度の目標値の設定が空欄だが、未設定でよいのか？また、アンケートの回収率を上げる努力が必要ではないか。【黒田】 自由記入方法のみではなかなかニーズや意見が広い難いので、ぜひマーケティングできる方法に変えてリピーター対策等にも活かしてください。【飯田】 					

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	細目	評価の視点	H26目標値	結果・所見	
3.施設・設備					
①アメニティーの向上					
A. ミュージアムショップ	・利用者満足度とニーズの把握状況 ・結果の反映状況			→ 該当無し 当館にはミュージアムショップは無い。	【課題】 【改善案】
有識者所見					
4.財源					
①予算の確保					
A. 入場料収入・その他の事業収入	・当初計画に対する収入の達成状況 ・その他の収入の状況	入場料収入:5%増 5,231,500円 その他事業収入:5%増 9,999,000円	入場料収入: 6,204,760円 (H25:4,982,420)前年度比:124.5% ○昨年度を大幅に上回り、目標を達成した。入館者の増加が原因と考えられる。●目標値・指標:達成(達成率118.6%) ・駐車場収入: 9,960,100円 (H25: 9,522,800円) 前年度比:104.6% ○目標には達しなかったものの前年度を上回った、駐車場収入は博物館の入館者増と比例するとは限らない。海中公園等の利用者数の伸び悩みも原因と考えられる。●目標値・指標:達成(達成率99.6%)		【課題】東日本大震災の風評被害は回復傾向であるが、積極的な広報活動やHPの充実等により有料入館者の年齢層にPRして集客し、入場料収入全体の増加を図る。 【改善案】入場者数の増加と同じ
有識者所見					
②館独自の財源獲得					
A. 外部助成金等の獲得	・獲得計画に対する達成状況	目標値未設定	①外部助成金等(含県関連財団)を申請しているか。→ Yes ②外部助成金等(含県関連財団)を獲得しているか。→ Yes ③獲得件数: 3件 ・獲得金額: 2,430千円 →①研究員は、外部資金も導入してより充実した博物館活動を実践するために、文部科学省科学研究費等に毎年応募している。 →②③本年度は、文部科学省科学研究費が1件採択され1,100千円の交付を受けた。また、企画展示の実施に際し、日本財団への助成申請が採択され、930千円の助成を受けた。他に一般財団法人海苔増殖振興会からの助成金400千円を受けた。	目標値未設定	【課題】助成金の獲得 【改善案】企画展示用、研究用の助成金について積極的に申請を行う。また、学術研究のレベルを向上させ共同研究を多くすることにより外部からの財源を獲得する基盤を整える。
有識者所見					

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目		H26目標値	結果・所見	H27目標値	
細目	評価の視点				
5. 収集・保存及び活用					
① 資料の管理と収集					
A. 収集点数と収集点数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収集資料の件数と点数 ・ 新収集資料の件数と点数 	600点増	収集点数 ① 収集点数: 61530点 ② 新収集資料点数: 1478点 ○ 当館では海洋生物を専門とする自然誌系研究員が各自年間100点の資料収集を目標としている。平成26年度は計1478点の資料を新たに登録した。 ● 目標値・指標: 達成(246%)	600点増	【課題】資料収集の時間を確保し、収集点数を増やす 【改善案】調査・研究、資料収集とその成果を展示・普及活動として県民に還元するため各業務にかかる時間のバランスを工夫し、資料収集を行う時間を確保する。
B. 登録	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収集資料の管理(台帳等整備)状況 	目標値未設定	収集資料の管理が適切に行われているか。→Yes 収集した海洋生物の標本、写真等は、登録番号を付して、各分類群や資料形態ごとに台帳やデータベースに記載・登録し、管理している。管理は、各分類群や資料形態ごとに決めた担当者を中心に行っている。	目標値未設定	【課題】資料管理のための時間を確保し、適切な管理を行う。 【改善案】展示・普及活動にかかる時間とのバランスを工夫し、資料登録後のデータベースへの記載などの業務にかかる時間を確保する。
C. 維持管理と修復・保存処理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的な維持管理の実施状況 ・ 資料の修復作業・保存処理の状況 	目標値未設定	① 定期的に維持管理が行われているか。→Yes 収集資料の維持管理に関しては、各分類群担当者が適宜行っている。乾燥収蔵庫の入口に、靴裏の付着物が収蔵庫に入るのを防ぐための粘着シートを設置している。 ② 収蔵庫の温湿度管理が適切に行われているか。→Yes 各収蔵庫の環境管理は、収蔵庫管理担当者ならびに設備管理委託業社社員(常駐)により、適宜行っている。 ③ 収蔵庫の入出者等の管理が行われているか。→Yes 入口に入室の有無を室外から確認できるように表示を設置した。 ① 資料の修復作業が適切に行われているか。→Yes ② 修復作業の予算要求を行っているか。→Yes 修復は研究員ができるものは、できる限り行っている。 ① 資料の保存処理が適切に行われているか。→Yes ② 保存処理の予算要求を行っているか。→Yes 資料の保存処理に係わる予算は、毎年要求を行い、配当を受けている。	目標値未設定	【課題】収蔵庫への入室者の管理 【改善案】収蔵庫内へ外部者を入れる場合には、必ず担当職員が立ち会い、事故のないように配慮する。また、受付で外部からの入館者をチェックを徹底し、不審者の入館を防止する。 【課題】資料を適切に修繕する 【改善案】修復が必要な資料の手当は、各担当者が随時行う。ただし、業者に修繕を委託する必要がある場合など予算が必要な物件に関しては、予算を確保して修繕する。 【課題】資料の適切な保存処理をする 【改善案】資料収集後、速やかに処理を行い、短時間のうちに、登録、収蔵庫への保管を行う。
有識者所見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎年資料増は良いことです。標本の増は館の活動を活性化させると同時に館の存在価値を高めることとなります。継続してください。【戸枝】 ・ 収集資料の管理も適切に行われていると思われます。今後も十分注意して資料保全に努めてください。【戸枝】 ・ 資料収集実績とデータベース化が進むと、自ずと館外利用(貸出・写真)が増えると思います。【戸枝】 				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	細目	評価の視点	H26目標値	結果・所見	
②資料の活用					
A. 貸出	・ 研究や展示等、資料の貸出状況	目標値未設定	①要望に対して資料の貸し出し等を行っているか。→ Yes ②件数: 24件(52点)、前年度比: 160%(平成25年度は15件76点) →資料貸し出し要請に対しては、各担当者が依頼者の所属や申請された使用目的から妥当性を判断し、適正に対処している。	目標値未設定	【課題】利用資料のデータベース化の促進 【改善案】登録資料のデータベース化を促進し、利用可能な資料のリスト整備する。
有識者所見		・データベース化は新たな研究や展示にも繋がっていくと思うので、ぜひ積極的に促進してほしい。【黒田】			
6.調査・研究					
①調査事業					
A. 調査事業の件数	・ 使命に基づく調査研究の実施状況	件数維持	①件数:11件 前年度比: 100% ○当館では、千葉県の海の自然誌に関する博物館として、「房総半島およびその周辺の海洋生物相とその特徴」を統一テーマとした調査研究活動を行っている。 ○研究員が共同して行う「総合分野研究」と、個々の自然誌系研究員がそれぞれの専門分野について個別に行う「詳細分野研究」の二つに大別され、「総合分野研究」を3件、「詳細分野研究」を8件の、計11件の調査研究を行っている。また、それらとの関連において、外部の機関とも共同した研究も行っている。	件数11件	【課題】調査・研究の時間の確保し学術研究のレベルをアップする 【改善案】海の博物館の使命は調査・研究、資料収集とその成果を県民に還元する展示、普及である。それぞれの業務に費やす時間のバランスを工夫し、調査・研究の時間を確保する。
有識者所見		・改善案に沿ってすすめてください。収集-登録-DB化-利用(調査研究・普及活動)-収集の年間(季節的)バランスを工夫して実施してください。【戸枝】			
②外部との調査・研究					
A. 外部との調査研究の件数	・ 共同研究等の実施状況	目標値未設定	①件数:14件 前年度比: 100%(平成25年度14件) ②共同研究の相手はどこか 国立歴史民俗博物館、琉球大学2件、東京大学、お茶の水女子大学2件、東京海洋大学、長崎大学、東北大学、新潟大学、国立環境研究所、独立行政法人水産総合研究センター、ウブサラ大学、ルンド大学、スウェーデン自然史博物館 ③その他:外来研究員1名、卒業研究生1名	目標値未設定	【課題】共同研究の機会の確保 【改善案】研究職員の専門性や館の設備を活かして、他機関との共同研究を推進し、効率的な調査研究を実施する。
有識者所見		・課題改善に沿って実施してください。近年、露出件数が増えていると思います。【戸枝】 ・外来研究員が企画展に協力体制を取っていただいた話を聞き、研究以外の博物館運営でも、様々な利点を与えてくれる制度であると感じた。【黒田】			

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目		H26目標値	結果・所見	H27目標値	
細目	評価の視点				
③研究成果の発表					
A. 展示等への反映	・ 展示への反映状況	4件	①企画展示数 4件、前年度比100% (H25:4件) →調査研究活動で得られた成果は企画展示に反映させるほか、随時、トピック展示等で反映させている。	4件	【課題】研究成果の成果を展示に反映させる 【改善案】マリンサイエンスギャラリーと収蔵資料展については、年次計画を作成し、実施に向けての調査研究活動を充実させる。また、研究成果があったときに、小規模の展示を迅速に行うようなシステムを構築する。
	・ 普及事業への反映状況	16件	②観察会・講座数16件 →調査研究活動で得られた成果は観察会・講座に反映させるほか、出前授業や講演などに反映させている。	16件	
B. 研究成果の学術的公表(館独自項目)	・ 学会誌や館の報告書等への論文等執筆・公表状況	研究職員ひとりあたり、学術論文・学術書1件(計8件)、学会発表1件(計8件)、一般向けの執筆2件(計16件)	①研究成果を学術雑誌、学術書等で公表しているか→ Yes 学術論文・学術書11件(前年度比122%) ②研究成果を学会等で発表しているか→ Yes 学会発表13件(前年度比65%) ③一般向けの書物等に執筆しているか→ Yes 一般科学報文(印刷物、メールマガジン)27件(前年度比79.4%) ●目標値・指標:達成	研究職員ひとりあたり、学術論文・学術書1件(計8件)、学会発表1件(計8件)、一般向けの執筆2件(計16件)	【課題】研究成果の公表につながる調査研究の実施、論文執筆等の業務時間の確保 【改善案】国内でも類を見ない海洋生物を専門とする研究員を有する館として、県民への研究成果の還元は重要であるので、他業務とバランスを工夫し、調査研究業務を実施するための時間を確保したり、他機関と共同研究を推進することで、より効率的な研究の実施を目指す。
C. 新聞、雑誌等マスコミ掲載(館独自項目)	・ 研究成果の新聞等への公表状況	目標値未設定	①件数 6件 千葉日報「海藻いろいろー千葉県豊かな海からー」2件 千葉日報「水の母の話」3件 読売新聞「チーバくんのQクラブはどうやって大きくなるの」1件	目標値未設定	【課題】新聞への掲載を継続するための研究の確保 【改善案】新聞掲載を継続するために、公表できる成果を上げることのできる調査・研究に取り組む。
有識者所見		・課題改善に沿って実施してください。近年、露出件数が増えていると思います。【戸枝】			

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	細目	評価の視点	H26目標値	結果・所見	
7.展示					
①常設展示					
A. 展示の更新と保守・点数	・ 展示替の実施状況	展示更新回数50回	①展示替えについての計画があるか。→ Yes ②計画通りに展示替えが行われているか。→ Yes ③年間更新回数：57回(H25年度44回；前年度比130%)：内訳はユニット展示の交換×2、季節展示の交換×4、トピック展示の更新×7、自然観察エリアホワイトボード×30、こんなのみたよ×13、こんな研究をやります×1 ●目標値・指標：達成(達成率114%)	展示更新回数50回	【課題】計画的な展示の交換・更新及び来館者等からの情報の収集 【改善案】常設展示のうち、ユニット展示、季節展示、自然観察エリアの各コーナーの定期的な交換を、年間計画に基づいて行うとともに、トピック展示やこんなのみたよのコーナーなどについては来館者からの情報等が重要になるので、頻繁な情報収集とともに、来館者へのこれらのコーナーの周知を図る。 また、新規のユニット作製の計画を立て、推進する。それに際して、費用を要するものは、予算の確保に努める。
	・ 保守・管理の実施状況	継続	①保守や管理の計画があるか。→ Yes ②計画通り行われているか。→ Yes ③保守・管理のための予算要求を行っているか。→ Yes ④展示中の事故はなかったか(職員・来館者)→ Yes ・剥製・ジオラマ等の展示品、AV機器については、毎年1回、来館者が減少する冬季に休館日を利用してもしくは臨時休館日を設けて、専門の業者による保守点検を行っている。	継続	【課題】来館者の安全に留意した展示保守・管理及び補修 【改善案】軽微な損傷等については、職員が日常的に保守を行っている。特に、来館者が触れる展示品は、安全面に留意し、消耗や破損を考慮して、随時交換等を行う。 【課題】展示機器類の老朽化 【改善案】展示機器類(モニター、プレーヤー、タッチパネル等)の多くがすでに耐久年数を越えており、いつ壊れてもおかしくない状況であるので、補修または交換のための予算請求を継続して行う。
B. 満足度	・ 利用者満足度の把握状況	アンケート項目「③入場してよかったか」の5と4の評価で70%以上	①面白い展示であったか(アンケートによる5段階評価)。(良)←5:48%, 4:34%, 3:10%, 2:4%, 1:4%→(否) ②わかりやすい展示だったか(アンケートによる5段階評価)。(良)←5:34%, 4:40%, 3:17%, 2:5%, 1:4%→(否) ③入場してよかったか(良)←5:53%, 4:32%, 3:9%, 2:2%, 1:4%→(否) ④職員の資質向上に努めているか。→Yes ⑤入場料金は適切であったか。高い:13%, 適切:39%, 安い:48% ●目標値・指標:「③入場してよかったか」の5と4の評価で85%→達成(達成率121%)	アンケート項目「③入場してよかったか」の5と4の評価で70%以上	【課題】来館者が満足できる常設展示 【改善案】展示内容については、アンケート結果をもとに改善すべき点を全職員で検討し、改善に努める。
	・ 結果の反映状況				
有識者所見		<p>・来館者の情報収集は良いと思います。館のファン層が増えます。展示のメンテナンス等も継続し、不具合のないようにしてください。入館者が増えてきたのに、不具合があっては減少します。【戸枝】</p> <p>・実際に博物館で展示を見て、機材が故障しているのを見ると、損をした気分になる。展示機器類の更新については、早急に行えるように請求を継続してほしい。目標達成率から、今年度目標設定値はもっと上げてほしいのではと感じる。【黒田】</p>			

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目		H26目標値	結果・所見	H27目標値	
細目	評価の視点				
②企画展示(変更)					
A. 企画数、利用者数、満足度	・ 実施状況 ・ 年齢・地域等入場者の動向把握 ・ 来館者満足度の状況		実施せず		【課題】 【改善案】
有識者所見					
③出前展示					
A. 企画数、利用者数、満足度	・ 実施状況(要望件数等) ・ 利用者が満足しているか		実施せず		【課題】 【改善案】
有識者所見					
④他館との合同企画による展示					
A. 企画数、利用者数、満足度	・ 実施状況(ネットワーク) ・ 利用者が満足しているか		実施せず		【課題】 【改善案】
有識者所見					
⑤企画展示(変更なし)					
A. 企画数、利用者数、満足度	・ 実施状況 ・ 年齢・地域等入場者の動向把握 ・ 来館者満足度の状況	マリンサイエンスギャラリー年度内期間中入場者数8,800人(前年度比105%)アンケート 全体的な感想(満足度)の5と4評価で80%以上	①企画数: 3件 「マリンサイエンスギャラリー・クラゲ展」、「収蔵資料展・フグ・ふぐ大集合」、「写真展-海の宝石-ウミウシの世界」を開催した。 ②入場者動向の把握を行っているか。→Yes ③マリンサイエンスギャラリー26年度内入場者数12,328名 ●目標値・指標: 達成(190%)(H25年度内入場者数: 6,121名) 23年3月に発生した東日本大震災以降減少していた入場者数は24年度に回復傾向が見られたが、25年度は天候等の影響により前年度比の7割に止まった。26年度は、展示のテーマが一般に興味を引くクラゲであったこともあり、前年度同時期の入館者数の2倍を記録することができた。 満足度(内容をアンケートによる5段階評価) マリンサイエンスギャラリー「クラゲ展」(良)← 4: 67.0%、3: 21.1%、2: 9.3%、1: 2.5% →(否) →4と3の割合 88.2% ●目標値・指標: 達成: 評価4と3で88.2%→目標達成	マリンサイエンスギャラリー年度内期間中入場者数9,700人(前2か年度平均値比105%)アンケート 全体的な感想(満足度)の4と3評価で80%以上	【課題】予算削減による企画展示の予算不足 【改善案】解説書、ポスター、チラシ等は外部資金(日本財団の助成金)で印刷する。業者委託により製作しなければならない複製等の以外の展示物、展示パネル等は、職員の知識・経験を集約して、可能な限り職員自らで作製する。 課題】来館者が満足する展示 【改善案】アンケート結果を基に、来館者の要望に対応した展示を計画・実施する。
有識者所見		・ 立地的に入館者は天候に左右されと考えられます。当該地域へのツアー誘致も検討してください。地元の地域振興、県の観光部署、来館経験団体の旅行会社等への働きかけをしたらどうでしょう。内陸県教委への宣伝も良いかも知れません。【戸枝】			

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目		H26目標値	結果・所見	H27目標値	
細目	評価の視点				
8.教育普及事業					
①参加体験事業					
A. 回数と参加者数、満足度	<ul style="list-style-type: none"> 種類と回数、参加者数 参加者は満足しているか 	海の博物館主催の体験活動80回 定員の8割	<ul style="list-style-type: none"> ●目標・指標達成(回数、定員) ・実施回数 93回 達成率:116% 観覧会10回、フィールドトリップ10回、バックヤードツアー4回、タッチプール20回、海の体験コーナー42回、みんなで工作7回 ・参加者総数 1,150人 達成率 122%(定員942人) 観覧会 参加者数:140人、定員達成率:72% フィールドトリップ 参加者数:190人、定員達成率:127% バックヤードツアー 参加者数:68人、定員達成率:113% タッチプール 参加者数:293人、定員達成率:155% 海の体験コーナー 参加者数:308人、定員達成率:122% みんなで工作 参加者数:131人、定員達成率:125% ・満足度(アンケートでの4段階評価) この行事に参加していかがでしたか? 観覧会 達成率(1・2評価の合計):100%(達成) (良)←1:77%, 2:23%, 3:0%, 4:0%, →(否) フィールドトリップ 達成率(1・2評価の合計):97%(達成) (良)←1:72%, 2:25%, 3:3%, 4:0%, →(否) バックヤードツアー 達成率(1・2評価の合計):91%(達成) (良)←1:38%, 2:53%, 3:9%, 4:0%, →(否) みんなで工作 達成率(1・2評価の合計):96%(達成) (良)←1:93%, 2:3%, 3:3%, 4:0%, →(否) *タッチプール、体験コーナーは、アンケートを実施せず 	回数:80回 定員充足:100% 満足度: 4段階評価で1.2評価が80%以上	【課題】定員超過の人気事業の増数(回)の検討 【改善案】定員超過の事業は、満員で、申し込みを断った人たちもいるが、現状の人員で、安全面を考慮して目一杯の対応を行っているのが現状で、単純に増回したり、定員を増やすことは難しい。そこで、ニーズが高い事業を増加させるために、職員の増員を要求するとともに、それらの事業へのボランティアの導入についても検討する。
有識者所見	・多くの体験型事業を実施し参加者も多い。改善案より現状継続になるでしょう。フィールド実施の事業は安全面を確保してください。【戸枝】 ・充足率を高める見通しがとても難しいことは理解した。【黒田】				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	細目	評価の視点	H26目標値	結果・所見	
②講演会・講座					
A. 回数と参加者数、満足度	<ul style="list-style-type: none"> 種類と回数、参加者数 参加者は満足しているか 	3回 定員充足率60% 4段階評価で1.2評価が80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ●目標値・指標：達成 ・実施回数 5回 達成率：167% ・定員充足率 参加者総数：75人(定員90人) 達成率：83% ・満足度(アンケート調査による4段階評価) この行事に参加していたか？ (良)←1:64%, 2:32%, 3:2%, 4:0%, →(否) 	回数：3回 定員充足：100% 満足度：4段階評価で1.2評価が80%以上	【課題】定員充足率を高める(参加者を増やす) 【改善案】事前申込行事においては、チラシ、HPなどで潜在的博物館利用者にも多角的に行事情報を提供し、定員充足率のアップを目指す。
有識者所見		企画展等開催時の講演会は、事業の広報にも展示理解にも有効です。継続し、改善案に沿って進めてください。【戸枝】			
9.情報の発信					
①メディアへの情報発信					
A. 館事業(含調査研究)の情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 発信件数 掲載件数の状況 	発信件数100件	①メディアへ館の情報を定期的に発信しているか。→ Yes 対応件数：408件(目標値100件、達成率408%) ②メディアからの協力要請に対応しているか。→ Yes 対応件数：40件(上記含まず) (新聞テレビラジオ 29件、その他情報誌等11件) →当館では、報道機関や雑誌、近隣市町村の広報誌に定期的に館イベント情報を提供している。また、各種メディアからの取材や館情報提供要請、ならびTV等の番組制作者からの協力要請には、原則的に全て対応した。 ●目標値・指標：達成(達成率408%)	発信件数250件	【課題】メディアの要望する情報の発信 【改善案】これまでは主に館行事の案内などの情報発信に限られているが、当館が関連する海洋生物に関する話題など、メディアの要望する情報を積極的に発信するシステムを築く。
有識者所見		近年、メディアへの露出数が増えたと思います。企画展トピックス等にはメディアへ広報資料を発信してください。【戸枝】			
②ホームページによる広報					
A. ホームページによる情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 更新件数 資料登録件数の状況 アクセス数の状況 	更新件数30回 アクセス件数62,000回	①定期的な更新がなされているか。→Yes 更新件数：52回 前年度比：173%(H25は30回) *ツイート回数176回(H25は175回) ②アクセス件数はどのくらいあるのか。 件数：42,058件 前年度比：101%(H25:41,642件)。 ●目標値・指標：達成率(更新173%、アクセス68%)	更新件数30回 アクセス件数48,000回(4000件×12月)	【課題】利用者の増加につながるホームページでの情報提供 【改善案】写真を多用したツイートなど、ホームページでのイベント情報発信を積極的に行い、入館者や行事参加者の増加につなげる。
有識者所見					

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目		H26目標値	結果・所見	H27目標値	
細目	評価の視点				
③印刷物の刊行					
A. 印刷物による情報提供及び広報活動	<ul style="list-style-type: none"> 種類と部数 配付等の状況 	4種類	①印刷物等の刊行により、館事業の情報提供及び広報活動を計画的に適切な時期をもって行っているか。→ Yes ②・種類: 7種類: マリンサイエンスギャラリー(ポスター、リーフレット、展示解説書)、収蔵資料展(リーフレット)、写真展(リーフレット)、開催行事の案内(H26とH27) ③時期は適切か。→ Yes →マリンサイエンスギャラリー等の展示会は、1か月前を目途に、また、行事予定は、本年度から次年度分を当該等年度末に発行するように改めた。さらに、本年度は、新たに獲得した予算で、新聞折込広告を2回実施した。 ●目標値・指標: 達成(175%)	数値目標未設定	【課題】 集客に繋がる印刷物の作成と効果的な配布 【改善案】 人々が興味を引くデザインや、欲する情報が適切に掲載された印刷物を作成し、配布時期に十分な人出が期待できる場所に集中的に投入(配布)する。
有識者所見		各事業毎に印刷物が用意されている。改善案に沿って進めてください。メディアへの発信も行ってください。【戸枝】			
10. 県民参画					
①県民との協働					
A. ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活用システムの構築 登録者数と活動状況 育成のための研修等の実施状況 	目標値未設定	①ボランティアを効果的に配置するシステムがあるか。→ Yes ②人数: 31人, 前年度比: 103%(H25年度は30人) →平成21年度からボランティア制度を設け、26年度は19名に「うみはくボランティア」として活動してもらった。主な活動は、諸活動の準備作業、資料収集活動及び行事実施時の補助等である。また、従来通り資料等を頻繁に提供いただいている地元漁業者の方々等12名をボランティアとして位置づけた。 ③活動日数: 164日(H25年度は164日) ボランティア登録した「うみはくボランティア」19名の活動延べ日数が148日、その他のボランティアの活動延べ日数が16日である。	数値目標未設定	【課題】 ボランティアの満足感の創出 【改善案】 各ボランティアに自発的かつ継続的に活動してもらえよう、興味や希望業務について調査を行い、それに即した活動を適宜用意する。また、全員を対象とした共同作業や研修を計画し、。ボランティアと職員の間で、より連帯感を持ってもらうとともに、人間関係の構築、その維持に努める。
B. 県民からの情報提供	<ul style="list-style-type: none"> 情報入手体制の状況 対応状況 	継続(27件)	①県民からの情報を取り入れているか。→ Yes ②情報件数: 16件, 前年度比: 107%(H25は15件) 内訳: 資料受入16件・26点 近隣住民、来館者等から資料や情報の提供を受けることがあり、それらについては、状態や価値を判断した上で、収蔵資料、調査研究、展示等に活用している。 ●目標値・指標: 未達成(達成率59%)		【課題】 県民からの情報の提供を増やすとともに適切に対処する 【改善案】 海の博物館が県民からの情報を積極的に受け入れていることをHPなどで周知し、情報の提供を啓発する。特に地元住民には積極的に周知活動を行う。また、得られた情報を積極的に展示に反映するなど、適切に対処する。
C. 友の会等	<ul style="list-style-type: none"> 会員数(増減) 活動状況(館との連携・単独事業) 	該当なし			【課題】 【改善案】
有識者所見		・資料提供者をボランティアに位置づけるのは良い考え方だと思います。提供者の名前も表示してください。【戸枝】 ・結果所見のとおり。館員だけでは集まらない貴重な情報もあると思います。情報提供者には名前を出して、謝意を表すなどすれば次へ続きます。【戸枝】 ・当館ならではの独自のボランティア体制が確立されていると感じられる。ボランティア間や職員との連携については、他館の事例(例えば、琵琶湖博物館の「はしわたし」制度など)を参考にしてください。【黒田】			

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	細目	評価の視点	H26目標値	結果・所見	
②NPO・外部機関との連携・調査					
A. 実施の状況	<ul style="list-style-type: none"> 受入態勢等の構築状況 実施状況 	連携・調査件数2件	①連携のシステムが構築されているか。→ Yes ②連携件数は何件か。→ 件数:3件, 前年度比:60%(H25:5件) →NPOとの連携については特に制度は設けておらず、必要が生じた際、その都度、職員で話し合い対処している。 ●目標値・指標:未達成(150%) 平成26年度は、NPO法人3団体(千葉シニア大学、南外房環境クラブならびに勝浦シティー応援団)と行事や地域の自然に関する研究で連携した。	数値目標未設定(必要に応じ随時)	
有識者所見	結果所見のとおり。連携した団体については、継続して館情報の提供等して、つながりを大切にしてください。【戸枝】				
11.人材育成					
①博物館実習					
A. 回数・人数	<ul style="list-style-type: none"> 受入態勢等の構築状況 回数、校数と参加者数 	目標値未設定	①博物館実習を行っているか。→ 過去にはある ②件数、参加者。→ H26年度は実施しなかった。	数値目標未設定(他業務との調整の中で、可能な範囲で対応を行う)	【課題】博物館実習の実施時期 【課題】次世代を育成する重要な事業ではあるが、学生の都合が良い時期が、当館の繁忙期となる8月であることから、その時期での受け入れは厳しい。現状では、適当な改善策は見当たらない。
有識者所見	館事業の実施時期や立地面が実習希望学生の受け入れ調整が難しいと思います。調整して受け入れ可能であれば受け入れてください。【戸枝】				
②教員等研修					
A. 回数・人数	<ul style="list-style-type: none"> 受入態勢等の構築状況 回数、校数と参加者数 	5件 100人	①教員研修を行っているか。→ Yes ②件数:3件, 前年度比 100%(H25は5件) ③人数:69人, 前年度比 103%(H25は78人) →教員研修に関しては、毎年定例で県総合教育センターと共催で1回、他各種教員組織からの依頼に応じて研修会を随時開催している。 ●標値・指標:未達成(件数60%、人数69%)	数値目標未設定(他業務との調整の中で、可能な範囲でできるだけ多くの対応を行う)	【課題】教員のスキルアップにつながる効果的な研修の実施 【改善案】研修企画者と綿密に連絡を取り、研修の意図を十分に把握した上で、それを具現化できる研修指導を行う。
有識者所見	事業時期と研修希望教員との調整が必要と思われます。教員研修は学校の館利用の機会作りでもあります。調整をして、受け入れを進めてください。【戸枝】 ・職場体験は地元学生ファンを作ることになります。②と関連して、教員研修から職場体験を増やすこともできるのではないでしょうか。【戸枝】				
③職場体験学習・インターンシップ					
A. 回数・人数	<ul style="list-style-type: none"> 受入態勢等の構築状況 回数、校数と参加者数 	3件 10人	①職場体験を受け入れているか。→ Yes ②件数:3件, 前年度比 300%(H25は1件) ③人数:5人, 前年度比83%(H25は6人) 児童・生徒数の減少とともに、ニーズは低下している。 ●目標値・指標:未達成(件数100%、人数83%)	数値目標未設定(依頼全ての受け入れ)	【課題】少ない要望に確実に応える 【改善案】次世代を育成する重要な事業であり、学校との連絡、調整を密にし、受け入れ体制を整える。
有識者所見	職場体験は地元学生ファンを作ることになります。②と関連して、教員研修から職場体験を増やすこともできるのではないでしょうか。【戸枝】				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目		H26目標値	結果・所見	H27目標値	
細目	評価の視点				
12.県民等からの依頼による学習支援					
①常設展示・企画展示等の活用					
A. 解説の回数、利用者数等	<ul style="list-style-type: none"> 回数と利用者数 利用者ニーズの把握状況 	200回 4,000人	①解説の要望に応じるシステムになっているか。→ Yes ②回数109回, 前年度比 34% (H25は318回) ③人数: 2633人。前年度比 44% (H25は6019人) →当館では、体験交流員による定時解説(75件790名)と、研究員が団体等からの依頼に応じて行う解説(件数34件1843人)がある。団体解説では、1名の職員が一日に2団体を解説するなど、要望に応えるため、かなり無理をして対応している。 ●目標値・指標: 達成(件数159%) 達成(人数151%)	数値目標未設定(他業務との調整の中で、可能な範囲でできるだけ多くの対応を行う)	【課題】他の業務を犠牲にして目一杯の対応を行っているのが現状で、本業務に従事できる人員の確保(増員)が最大の課題 【改善案】職員の増員を要求するとともに、本事業へのボランティアの導入についても検討する。
有識者所見		・展示解説は、展示理解に有効です。それは館の印象を高めることになり、入館者増にもつながります。調整の上、継続してください。【戸枝】			
②館内における講座・講演会活動					
A. 回数、利用者数と満足度	<ul style="list-style-type: none"> 回数と利用者数 利用者ニーズの把握状況 	10回	①講演会等の要望に応じるシステムがあるか。→ Yes ②回数: 3回, 前年度比33% (H25は9回) ③人数: 160人, 前年度比26% (H25は613人) ●目標値・指標: 未達成(件数33%)	数値目標未設定(他業務との調整の中で、可能な範囲でできるだけ多くの対応を行う)	【課題】業務の調整 【改善案】依頼への対応は、計画外業務なので、職員間の連絡・調整を密にし、なるべく多くの依頼に対応できるようにする。
有識者所見		・企画展示時の調整・講演会は、展示理解に有効です。広報資料にも使えます。【戸枝】			
③学校連携事業					
A. 学校団体の受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> 受入校数と回数、人数 利用者ニーズの把握状況 	学校35回	①要望に応じるシステムになっているか。→ Yes ②回数: 41回, 前年度比 68% (H25は60回) ③人数: 2,439人, 前年度比 87%(H25は2,813人) →申込みがあった場合はなるべく受け入れるよう心掛け、職員の出勤・週休等を調整しながら対応した。 ●目標値・指標: 達成(117%)	数値目標未設定(他業務との調整の中で、可能な範囲でできるだけ多くの対応を行う)	【課題】他の業務を犠牲にして目一杯の対応を行っているのが現状で、本業務に従事できる人員の確保(増員)が最大の課題 【改善案】職員の増員を要求するとともに、本事業へのボランティアの導入についても検討する。
B. 出前授業	<ul style="list-style-type: none"> 実施校数と回数、人数 利用者ニーズの把握状況 	7回	①出前授業の受け入れ態勢があるか。→ Yes ②回数: 2回, 前年度比22% (H25は9回) ③人数: 100名, 前年度比 194% (H25は958人) ●目標値・指標: 達成(10%)		
有識者所見		・結果所見のとおり、調整して受入れてください。【戸枝】			

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	細目	評価の視点	H26目標値	結果・所見	
④外部講師依頼					
A. 依頼の状況、回数と人数	・ 支援体制の状況 ・ 回数と参加者数 ・ 利用者ニーズの把握状況	目標値未設定	外部への講師派遣等の要望があるか、また、支援体制が構築されているか →Yes ①回数：10回(H25は9回)	数値目標未設定 (他業務との調整の中で、可能な範囲でできるだけ多くの対応を行う)	【課題】業務の調整 【改善案】依頼への対応は、計画外業務なので、職員間の連絡・調整を密にし、なるべく多くの依頼に対応できるようにする。
有識者所見	・外部での講演会も館の周知、活動周知に有効と思います。改善案のとおり、体制は作っておいてください。【戸枝】				
⑤リファレンス					
A 専門的質問への対応状況	・ 実施校数と回数、人数				
有識者所見					
13.地域づくりへの支援					
①地域との連携事業					
A. 社会教育機関・地域住民等との連携	・ 実施状況(種類と件数) ・ ニーズの把握の状況	目標値未設定	○ 連携事業を行っているか→Yes ①住民との協働による情報の収集 漁業関係者から16件30点の海洋関係生物等が提供された。それらを展示室で紹介するとともにHP等で随時公開している。 ②地元市町村・関係機関との連携 地元NPO法人2団体、勝浦市、いすみ市、御宿町、鴨川青年の家、JR勝浦駅、勝浦海中公園センター、東京大学千葉演習林と連携した10事業を実施した。	目標値未設定 (他業務との調整の中で、可能な範囲でできるだけ多くの対応を行う)	【課題】地域企業との協働事業実施に伴う経費の按分化 【改善案】地域連携を一層推進する上で、民間事業者との協働事業実施を容易にするために、条例改正等により経費の按分化が図れるようにする等、基盤整備が必要。
有識者所見	・地域との密な連携は、資料収集や情報収集に役立ちます。館のファン層、関心層を増やすことが大切だと考えます。口コミによる広報も期待しています。【戸枝】				
②観光資源としての活用					
A. 県外団体来館者数	・ 団体数 ・ 地域等の傾向	100団体3,000人	①団体・来館者数：54団体3,312人 (H25は 51団体3,356人) ②利用地域：東京70%、埼玉19%、神奈川5%、その他6% ●目標値・指標：達成(団体：54% 人数：110%)	75団体4,500人	【課題】勝浦海中公園センターのみを利用する団体が多数あるので、少しでもこれらを海博へ誘致する 【改善案】勝浦海中公園センター他、海博・海中公園エリア各所の目立つ場所に、海博の事業や利用料を記した各種資料を配置・掲示し、添乗員(旅行会社や団体代表)に、勝浦海中公園センターと併せての海博利用を促す。
B. 外国人入場者数	・ 利用者数 ・ 地域等の傾向	目標値未設定 (方法を検討)	①来館者数：186人 (H25は163人) ②配付資料の種類：2種類；「利用のしおり(英語版)」(無料)、展示解説書の巻末に2ページの英文要約付(有料)。 ※外国人から要望があった場合は、研究員が対応している。	目標値未設定	【課題】外国人の人数のカウント 【改善案】現在の入館者確認システムでは、外国人入館者の数は正確に把握できない。外国人と推測される入館者を受付で計数しているのが現状である。したがって、実際にはアジア系を中心に多くの入館者がいると思われるが、適当な改善策は見当たらない。
有識者所見	・入館者が増えています。近隣観光施設との情報交換を行い、入館者増に努めてください。外国人観光客については、当該地区の外国人入込数を確認し、ツアーの通知も検討してください。外国人のツアーの有無、有ではどのような場所に行くか、当該地区だけでなく、近隣地区ではどうかなど調査したらどうでしょうか(県、市観光課、旅行業者)【戸枝】				